



最近の信用金庫地区別預貸金増加率の動向

視点

全国信用金庫の預貸金増加率（増加率は末残の前年同月比。以下同じ。）の推移をみると2019年度は預金、貸出金とも概ね横ばいで推移してきた。しかし、政府および日本銀行による各種給付金の支払い、コロナ禍に苦しむ企業の資金繰り支援および金融緩和の継続により2020年4月末以降、両者の増加率は急上昇している。また、全国信用金庫の貸出金増加率は、2020年4月末以降、国内銀行貸出金（銀行勘定ベース。以下同じ。）の増加率と同様に上昇し、7月末には国内銀行の増加率を上回っている。信用金庫の預貸金の増加率を地区別に見ると、2020年4月末以降、全国の動きと同様に急上昇しているが、細かく見ると傾向にはバラツキがある。今回は、コロナ禍の影響が預貸金市場に表れ始めた2020年4月末以降、7月末までのデータも踏まえ、信用金庫の最近の地区別預貸金増加率の動向を見る。

要旨

- 預金増加率が急上昇する直前の2020年3月末と7月末の地区別預金増加率を対比すると全地区で預金増加率が上昇していることがわかる。加えて、3月末の預金増加率が高い地区ほど7月末の預金増加率の上昇幅が大きい傾向にある。この傾向は、地区別貸出金増加率にも見られる。
- 2020年7月末の貸出金増加率と預金増加率の関係を地区別に見ると、東北、北陸、九州北部では預金増加率が貸出金増加率を上回っている。東京、関東、中国、南九州では、預金と貸出金の増加率がほぼ同水準である。北海道、東海、近畿、四国では、貸出金増加率が預金増加率を上回っている。
- 全国各地の貸出金増加率の業種別寄与度の動きを見ると、多くの地区で建設業（10地区）、小売業、飲食業（ともに9地区）、製造業（7地区）が、2020年6月末の寄与度やその3月末比の上昇幅が大きい。
- 信用金庫の2020年7月末の貸出金増加率上位4地区（九州北部、北海道、東京、近畿）のすべての地区で、信用金庫の貸出金増加率が国内銀行のそれを上回っている。中位3地区（関東、四国、東海）のうち関東と四国で、信用金庫の貸出金増加率が国内銀行のそれを上回っている。一方、下位4地区（中国、南九州、東北、北陸）のうち、信用金庫の貸出金増加率が国内銀行のそれを上回っているのは東北と中国である。

キーワード

地区別預貸金増加率 国内銀行 業種別寄与度 建設業 小売業 飲食業 製造業

目次

はじめに

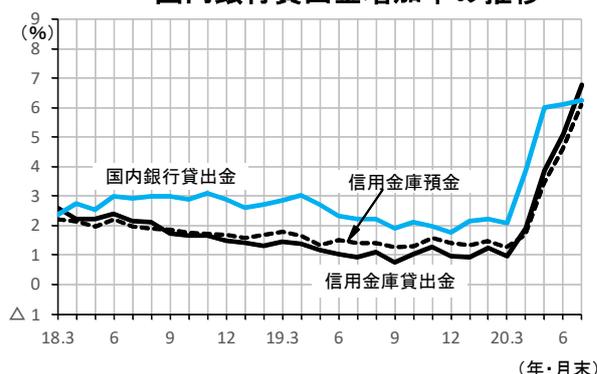
1. 信用金庫の地区別預貸金増加率の推移
2. 信用金庫の地区別貸出金増加率の業種別寄与度
3. 信用金庫と国内銀行の地区別貸出金増加率の対比

おわりに

はじめに

全国信用金庫の預貸金増加率（増加率は末残の前年同月比。以下同じ。）の推移をみると2019年度は預金、貸出金とも概ね横ばいで推移してきた（図表1参照）。しかし、政府および日本銀行による各種給付金の支払い、コロナ禍に苦しむ企業の資金繰り支援および金融緩和の継続により2020年4月末以降、両者の増加率は急上昇している。また、全国信用金庫の貸出金増加率は、2020年4月末以降、国内銀行貸出金（銀行勘定ベース。以下同じ。）の増加率と同様に上昇し、7月末には国内銀行の増加率を上回っている。信用金庫の預貸金の増加率を地区別¹に見ると、2020年4月末以降、全国の動きと同様に急上昇しているが、細かく見ると傾向にはバラツキがある。今回は、コロナ禍の影響が預貸金市場に表れ始めた2020年4月末以降、7月末までのデータを踏まえ、信用金庫の最近の地区別預貸金増加率の動向を見る。

（図表1）全国信用金庫の預貸金増加率と国内銀行貸出金増加率の推移



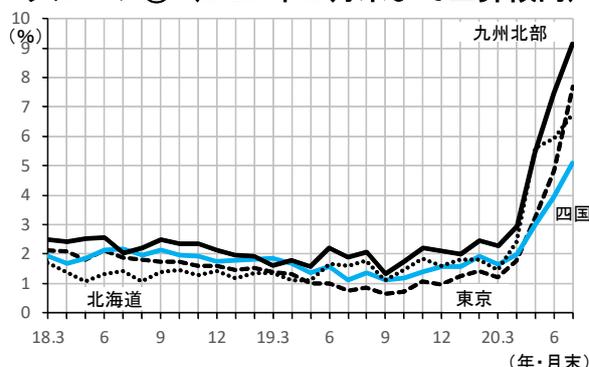
（備考）1. 以下、本稿での増加率は、末残の前年同月比
 2. 以下、本稿での国内銀行貸出金は銀行勘定ベース
 3. 日銀資料等より作成

1. 信用金庫の地区別預貸金増加率の推移

（1）預金

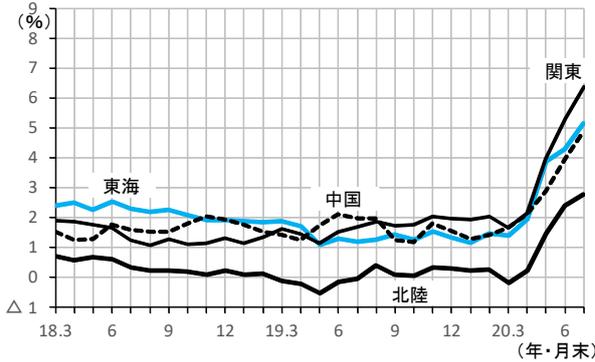
信用金庫の地区別預金増加率の2019年9月末以降2020年3月末までの傾向から、大きく3つのグループに分類される（図表2参照）。グループ①（2020年3月末まで上昇傾向：北海道、東京、四国、九州北部の4地区）、グループ②（2020年3月末まで横ばい：関東、

（図表2）信用金庫の地区別預金増加率の推移グループ①（2020年3月末まで上昇傾向）

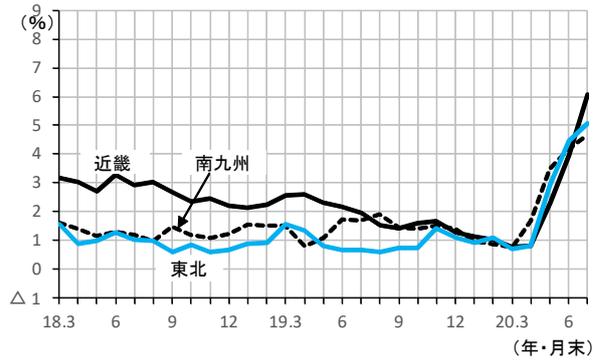


¹ 信用金庫の地区区分のうち、関東は東京を除く6県のほか新潟、山梨、長野を含む。北陸は富山、石川、福井、東海は岐阜、静岡、愛知、三重、九州北部は福岡、佐賀、長崎、南九州は熊本、大分、宮崎、鹿児島からなる。

(図表2) 続き
グループ② (2020年3月末まで横ばい)



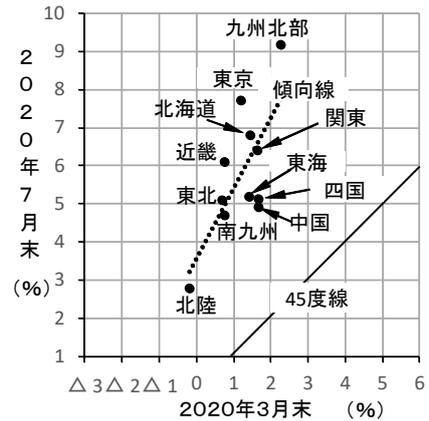
グループ③ (2020年3月末まで低下傾向)



北陸、東海、中国の4地区)、**グループ③**(2020年3月末まで低下傾向:東北、近畿、南九州の3地区)の3グループである。「はじめに」で触れたように、2020年4月末以降、全地区で預金増加率は急上昇しており、このグループ分類は足もとまでの各地区の預金増加率の動きをグラフで見やすくするため、便宜的に区分したものである。

次に、2020年3月末と7月末の地区別預金増加率を対比すると、総じて2020年3月末(横軸)と7月末(縦軸)が等しい45度線の左上にあり、全地区で地区別預金増加率が3月末から7月末に上昇していることがわかる(図表3参照)。加えて、全地区の回帰分析による傾向線の傾きが45度線より急であり、3月末の預金増加率が高い地区ほど7月末の預金増加率の3月末からの上昇幅(縦軸方向に45度線を上回る幅)が大きい傾向にある。上昇幅は九州北部、東京、北海道の順に大きく、北陸、南九州、中国の順に小さい。

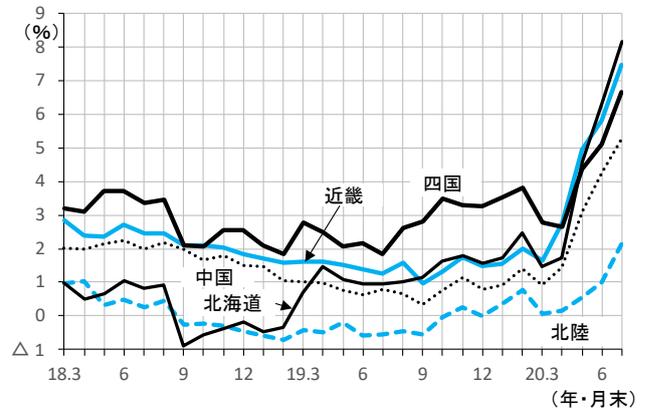
(図表3) 地区別預金増加率の2020年3月末と7月末の対比



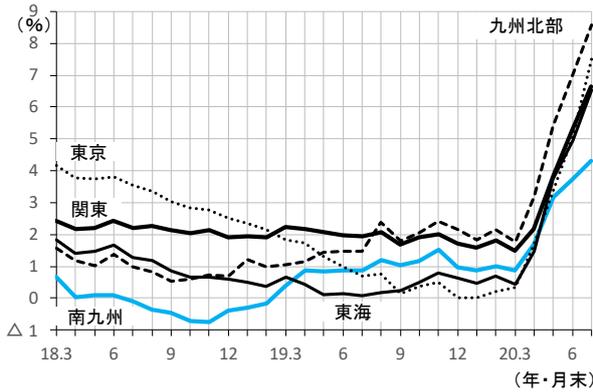
(2) 貸出金

信用金庫の貸出金増加率の2019年9月末以降2020年3月末までの傾向をみると、預金増加率と同様に大きく3つのグループに分類される(図表4参照)。**グループ④**(2020年3月末まで上昇傾向:北海道、北陸、近畿、中国、四国の5地区)、**グループ⑤**(2020年3月末まで横ばい:東京、関東、東海、九州北部、南九州の5地区)、**グループ⑥**(2020年3月末まで低下傾向:東北地区)の3グループである。

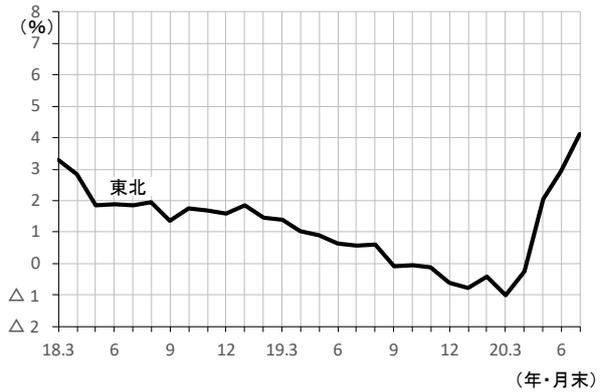
(図表4) 信用金庫の地区別貸出金増加率の推移
グループ④ (2020年3月末まで上昇傾向)



グループ⑤ (2020年3月末まで横ばい)



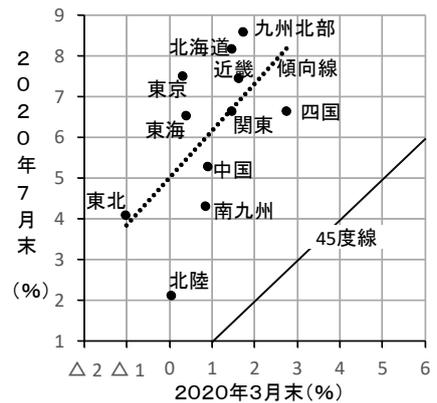
グループ⑥ (2020年3月末まで低下傾向)



預金増加率の場合と同様、貸出金増加率も2020年4月末以降、全地区で急上昇しており、このグループ分類も、足もとまでの各地区の預金増加率の動きをグラフで見やすくするため、便宜的に区分したものである。

次に、2020年3月末と7月末の地区別貸出金増加率を対比すると、預金増加率と同様、総じて2020年3月末(横軸)と7月末(縦軸)が等しい45度線の左上にあり、全地区で地区別貸出金増加率が3月末から7月末に上昇していることがわかる(図表5参照)。加えて、全地区の回帰分析による傾向線の傾きが45度線より急であり、3月末の貸出金増加率が高い地区ほど7月末の貸出金増加率の3月末からの上昇幅が大きい傾向にある。上昇幅は個別には、九州北部、北海道、東京の順に大きく、北陸、南九州、四国の順に小さい。

(図表5) 地区別貸出金増加率の2020年3月末と7月末の対比

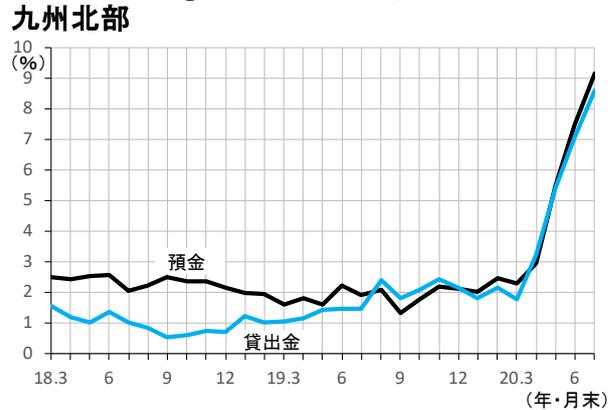
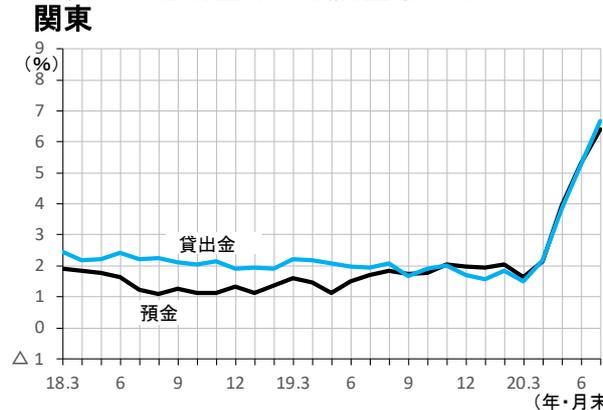


(3) 預貸金増加率の地区別対比

次に、信用金庫の預金と貸出金の増加率を地区別に対比する。

グループ⑦(近似水準からほぼ同水準: 関東、九州北部、南九州の3地区)は、2019年9月末から預貸金増加率が近似水準で推移し、2020年4月末から7月末はほぼ同水

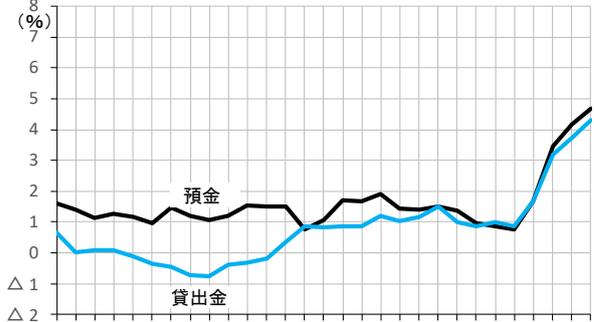
(図表6) 信用金庫の預貸金増加率の地区別対比 グループ⑦(近似水準からほぼ同水準)



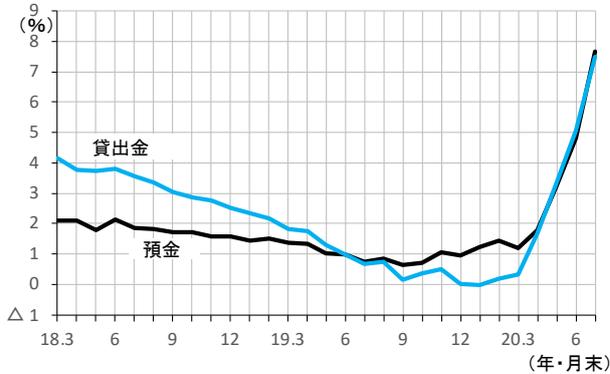
準となっている（図表6参照）。

グループ⑧（乖離からほぼ同水準：東京、中国の2地区）は、2019年9月末から2020年3月末までは預貸金増加率が乖離していたが、4月末から7月末はほぼ同水準となっている（図表7参照）。

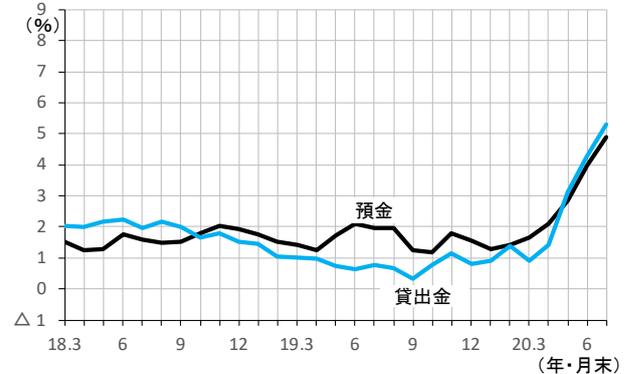
（図表6）（続き）
南九州



（図表7）信用金庫の預貸金増加率の地区別対比
東京

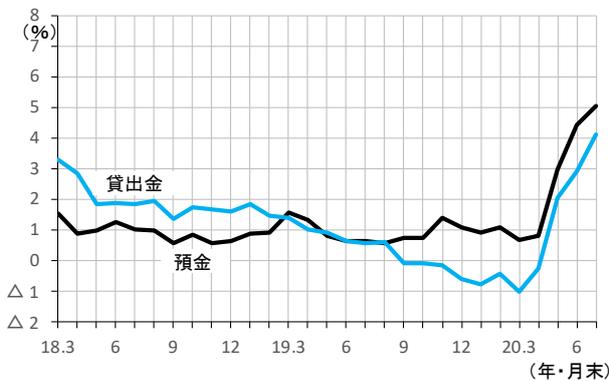


（図表7）信用金庫の預貸金増加率の地区別対比
中国

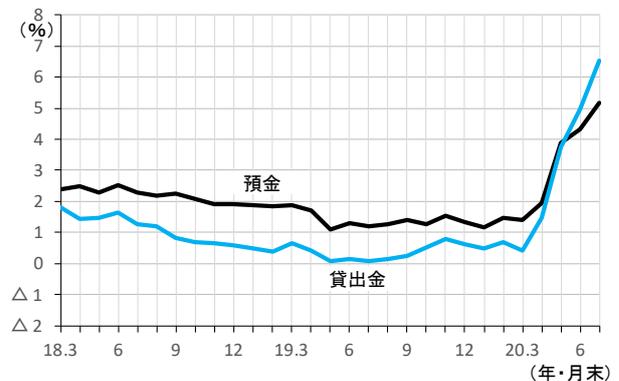


グループ⑨（乖離が継続：東北、東海、近畿、四国の4地区）は、2019年9月末から続く預貸金増加率の乖離が、両者が連動して急上昇した2020年4月末以降も継続している（図表8参照）。うち、東海は預金増加率を下回って乖離していた貸出金増加率が、足もとでは預金増加率を上回って乖離している。

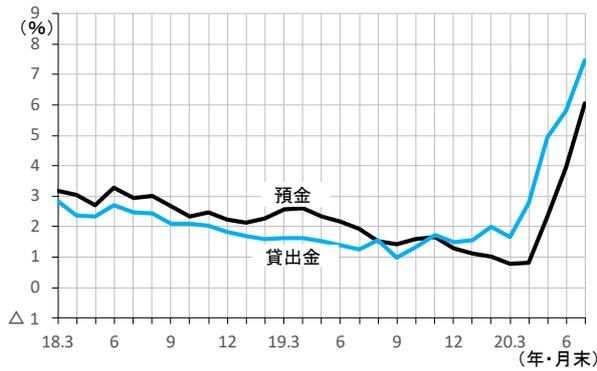
（図表8）信用金庫の預貸金増加率の地区別対比
東北



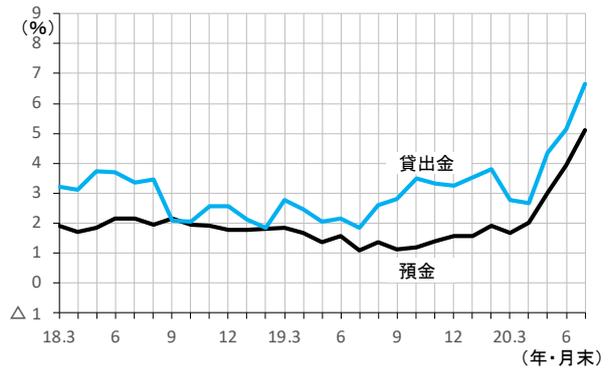
（図表8）信用金庫の預貸金増加率の地区別対比
東海



(図表8) (続き)
近畿



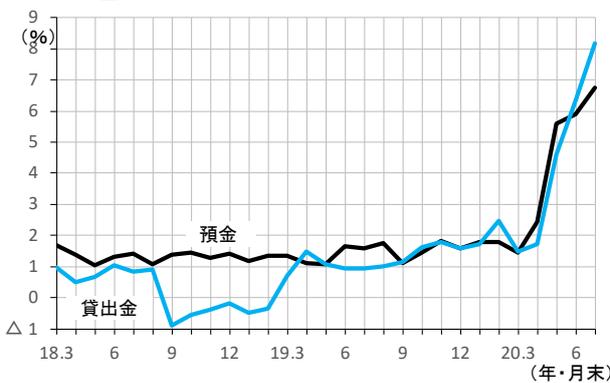
四国



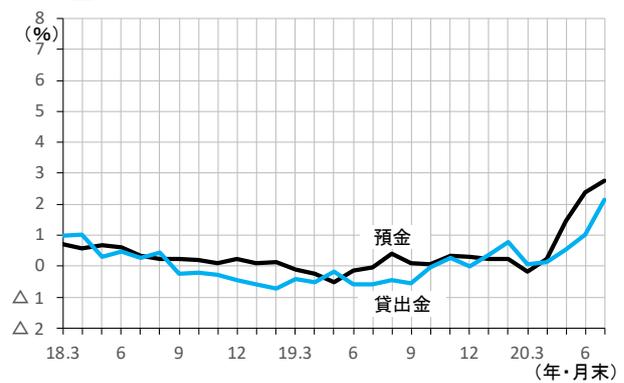
グループ⑩(近似水準から乖離：北海道、北陸の2地区)は、2019年9月末から近似の預貸金増加率で推移してきたが、両者が連動して急上昇した2020年4月末以降、乖離した(図表9参照)。ただ、北陸では両者は、7月末に乖離度が縮小した。

(図表9) 信用金庫の預貸金増加率の地区別対比 グループ⑩(近似水準から乖離)

北海道



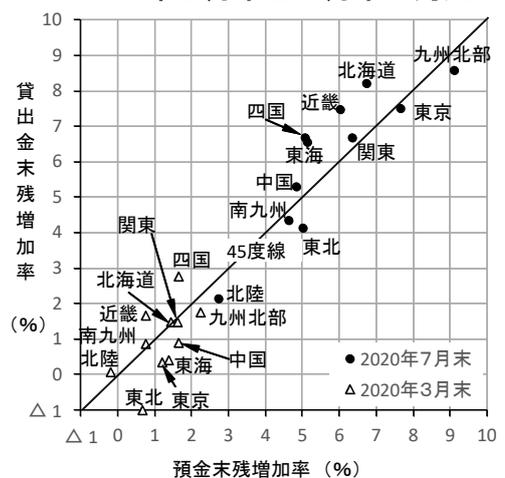
北陸



次に、預貸金増加率が急上昇する直前の2020年3月末と7月末の2時点での両者の関係を地区別に対比する(図表10参照)。3月末時点で東北、東京、東海、中国の預金増加率は、貸出金増加率を上回っている。北海道、関東、北陸、九州北部、南九州で預貸金の増加率がほぼ同水準である。近畿と四国では、貸出金増加率が預金増加率を上回っている。

7月末になると、東北、北陸、九州北部では預金増加率が貸出金増加率を上回っている。東京、関東、中国、南九州で預貸金の増加率がほぼ同水準である。北海道、東海、近畿、四国では貸出金増加率が預金増加率を上回っている。

(図表10) 地区別預貸金増加率の2020年3月末と7月末の対比



東北は、3月末と7月末の両時点で貸出金増加率が預金増加率を下回っており、逆に、近畿と四国は、両時点で貸出金増加率が預金増加率を上回っている（図表 11 参照）。関東と南九州は、両時点で預貸金の増加率がほぼ同水準である。3月末に貸出金増加率が預金増加率を下回っていた東海は、7月末には貸出金増加率が預金増加率を上回っており、対照的な動きとなっている。また、北陸の場合、他の地区と同様に預貸金増加率がともに3月末から7月末に上昇している。しかし、3月末時点で相対的に低い北陸の両者の増加率は、7月末までの増加率の拡大幅も相対的に小さく、図表 10 において、他地区の3月末のゾーンに位置している。

（図表 11）地区別預貸金増加率の大小関係（2020年3、7月末時点）

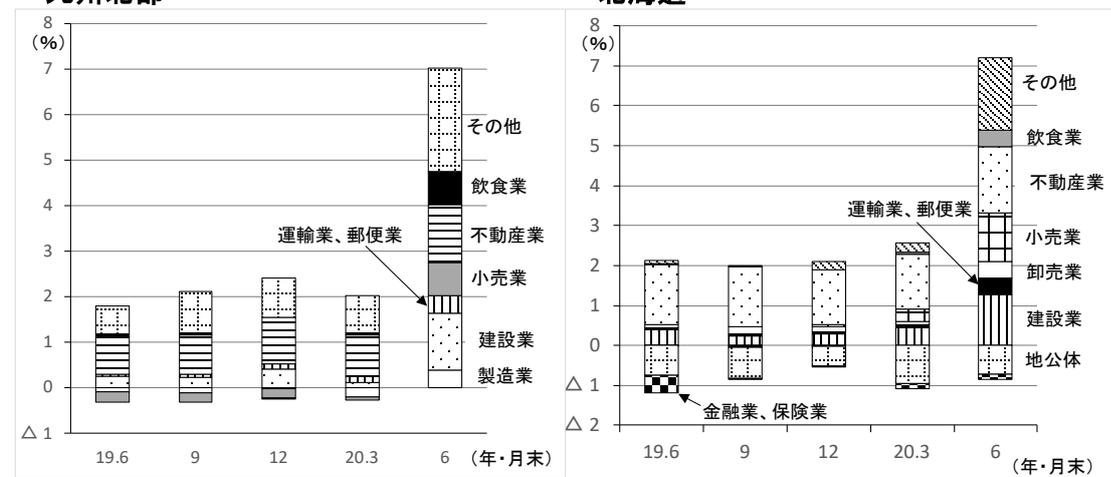
	貸出金<預金	貸出金=預金	貸出金>預金
3月末	東北、東京、東海、中国	北海道、関東、北陸、九州北部、南九州	近畿、四国
7月末	東北、北陸、九州北部	東京、関東、中国、南九州	北海道、東海、近畿、四国

2. 信用金庫の地区別貸出金増加率の業種別寄与度

次に、信用金庫の地区別貸出金増加率の業種別寄与度（前年同月比増加率の寄与度²で四半期ベース。以下同じ。）から、最近の貸出金の増加をけん引した業種を見ていく。

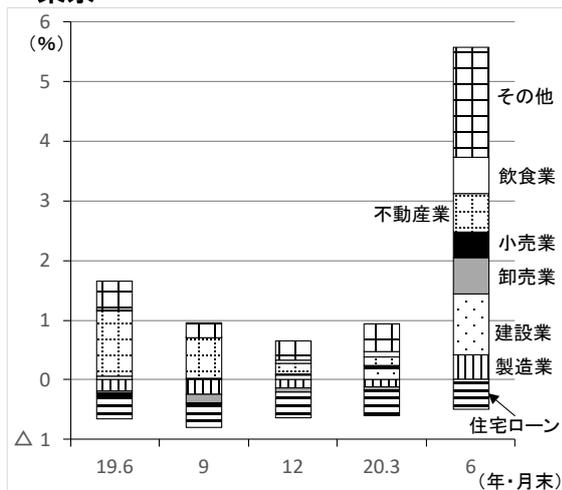
まず、図表 5 で 2020 年 7 月末の貸出金増加率が上位の 4 地区（九州北部、北海道、東京、近畿）について、近年の貸出金増加率の業種別寄与度を見る（図表 12 参照）。東京を除き 2019 年 6 月末から不動産業の寄与度が大きく、しかも上昇傾向にあり、2020 年 6 月末では 4 地区の建設業の上昇が目立った。加えて、九州北部は小売業、飲食業、製造業、北海道は小売業、卸売業、飲食業の上昇が目立った。東京は、低下傾向から上昇に転じた不動産業に加え、飲食業、製造業、卸売業、近畿は、製造業、小売業、卸売

（図表 12）信用金庫地区別貸出金増加率が上位の地区の近年の業種別寄与度の推移
九州北部 北海道

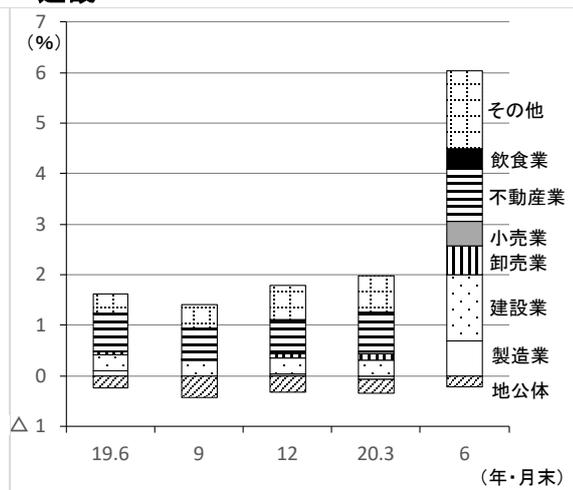


² 貸出金残高増加率における業種別寄与度は、その業種向けの貸出金残高の期中の増加額（マイナスは減少額）によって、貸出金残高全体を何%増加させたかを示したものである。全業種の寄与度を合計すると、貸出金残高全体の増加率になる。業種別寄与度は、（その業種向け貸出金残高増加率）×（前期の貸出金残高全体に占めるその業種向け貸出金残高の構成比）で算出可能

(図表 12) (続き)
東京



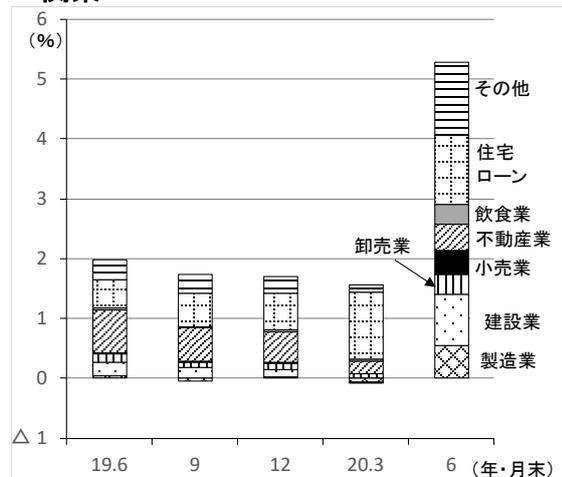
近畿



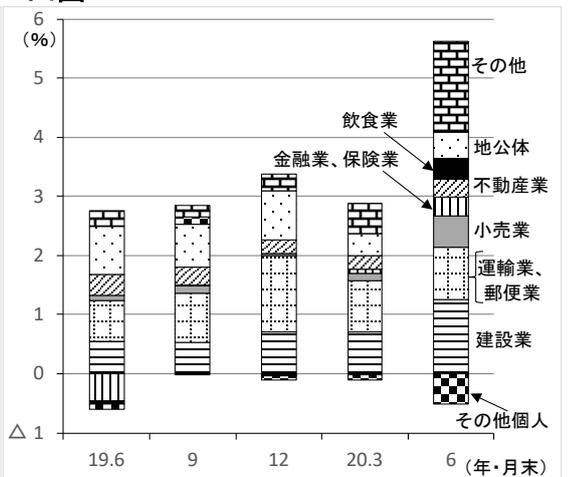
業、飲食業の寄与度の上昇が目立った。一方、北海道と近畿の地方公共団体（以下「地公体」という。）と東京の住宅ローンの寄与度はマイナスが続いている。

次に、図表 5 で 2020 年 7 月末の貸出金増加率が中位の 3 地区（関東、四国、東海）について、近年の業種別寄与度を見る（図表 13 参照）。

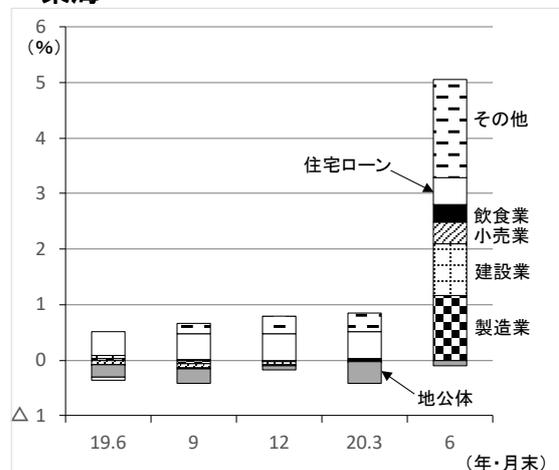
(図表 13) 信用金庫地区別貸出金増加率が中位の地区の近年の業種別寄与度の推移
関東



四国



東海



関東は、2019 年 6 月末から大きい住宅ローンの寄与度が上昇傾向にある。2020 年 6 月末には、建設業、製造業、小売業の寄与度の足もとの上昇が目立ったほか、低下傾向にあった不動産業の寄与度も上昇に転じた。

四国は、2020 年 6 月末には、建設業、小売業、飲食業の寄与度の上昇が目立っている。一方、2019 年 12 月末に大きかった運輸・郵便業と地公体の寄与度が、その後は低下傾向

にあり、その他個人（＝「個人向け」－「住宅ローン」）の寄与度のマイナス幅も、2020年6月末には目立って拡大した。

東海は、住宅ローンが2019年6月末から一定の寄与度を維持している。2020年6月末には製造業、建設業、小売業、飲食業などの寄与度の上昇が目立つ。

このように3地区では、全地区で建設業、小売業、2地区で製造業、飲食業の寄与度の上昇が目立った。

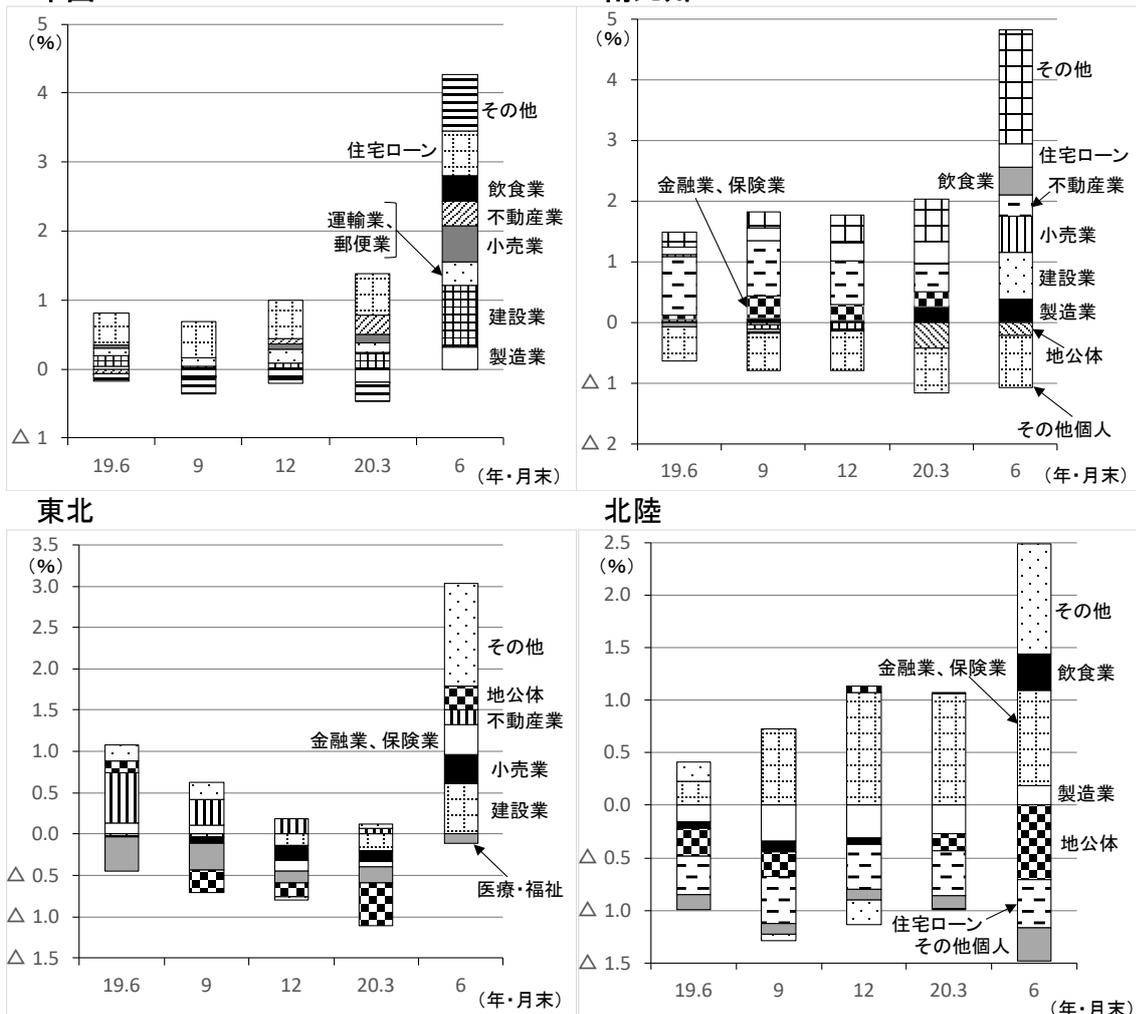
次に、図表5で2020年7月末の貸出金増加率が下位の4地区（中国、南九州、東北、北陸）について、近年の業種別寄与度を見る（図表14参照）。

中国は、2019年6月末から大きい住宅ローンの寄与度が上昇傾向にあるのに加えて、2020年6月末には建設業、製造業、飲食業、小売業の寄与度が目立って上昇している。

南九州は、2020年6月末には建設業、小売業、飲食業の寄与度の上昇が目立っている。一方、不動産業、金融業、保険業の寄与度が低下傾向にあり、その他個人の寄与度はマイナス幅を広げている。

東北は、2020年6月末には建設業、地公体、小売業、金融業、保険業の寄与度が目

(図表14) 信用金庫地区別貸出金増加率が低位の地区の近年の業種別寄与度の推移
中国 南九州



立って上昇し、不動産業の寄与度も下げ止まっている。

北陸は2019年12月末以来、金融業、保険業の寄与度が高水準にある。加えて、足もとで製造業、飲食業の寄与度が目立って上昇している。一方、2019年6月末から住宅ローンの寄与度が大きくマイナスであり、足もとで地公体とその他個人の寄与度のマイナス幅も拡大している。プラスマイナス両面の効果によって相殺され、2020年6月末の北陸の貸出金末残増加率は他の地区に比べて低い。

このように、4地区のうち3地区で建設業、小売業、飲食業、2地区で製造業の寄与度の上昇ぶりが目立つ一方、2地区でその他個人の寄与度がマイナス幅を広げている。

以上、全国11地区を貸出金末残増加率の水準別に各地区の業種別寄与度の動きを見てきた。足もとでの寄与度の大きさや上昇ぶりが多くの地区で注目された業種には、建設業（10地区）、小売業と飲食業（ともに9地区）、製造業（7地区）がある。

3. 信用金庫と国内銀行の地区別貸出金増加率の対比

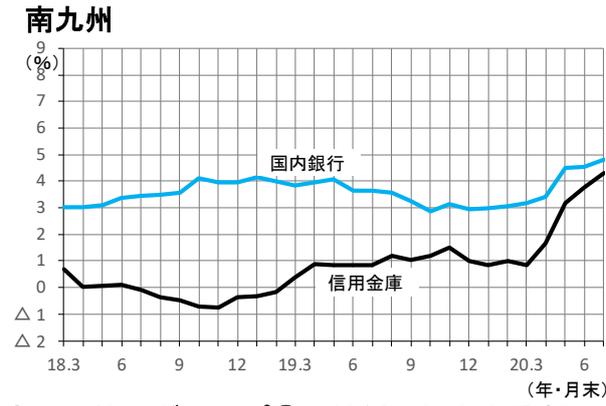
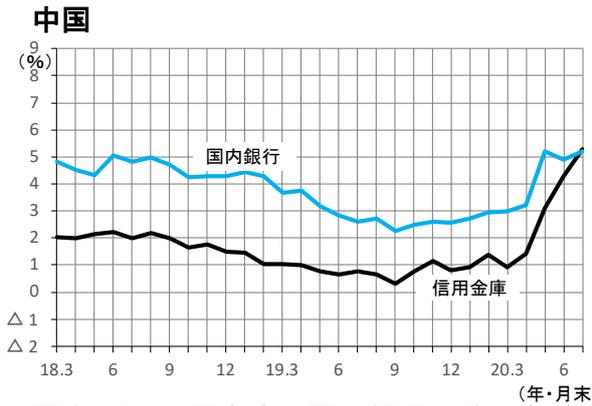
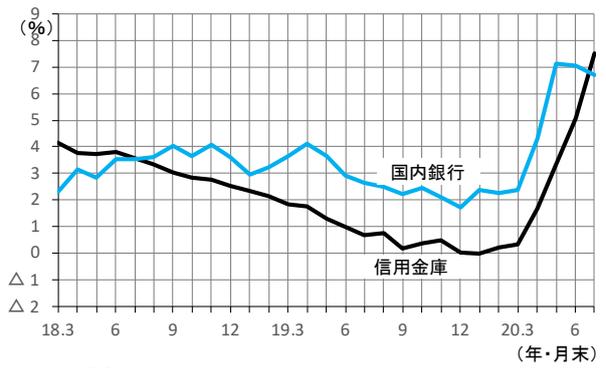
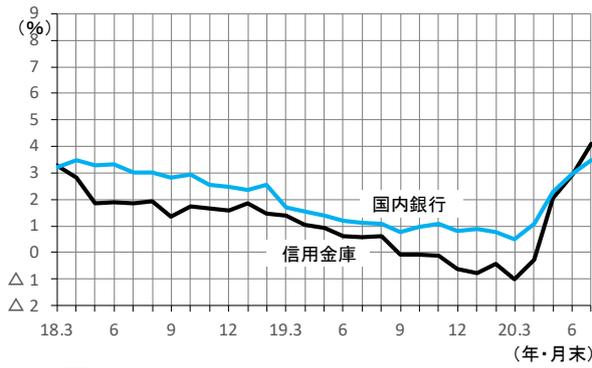
最後に、地区別に信用金庫と国内銀行の貸出金増加率の推移を対比する。ここでは、2019年6月末以降、信用金庫と国内銀行の地区別貸出金増加率が近似水準にあるか乖離しているかにより、3つのグループに分類できる。

グループ⑪（乖離から近似水準に：東北、東京、中国、南九州）は、この1年で信用金庫の貸出金増加率が国内銀行に追いつき、東北、東京、中国は追い越す形で差を縮めている（**図表 15 参照**）。

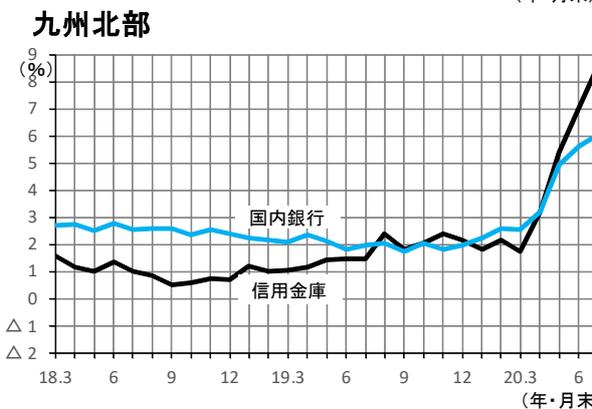
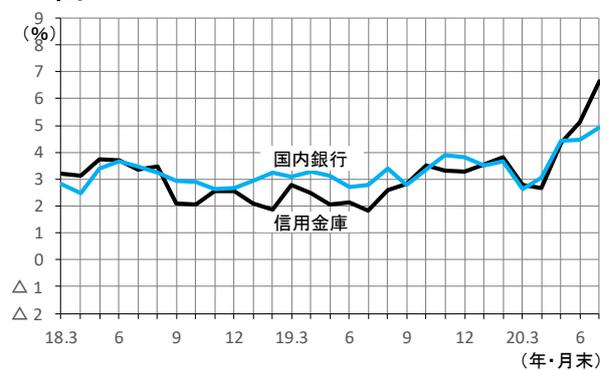
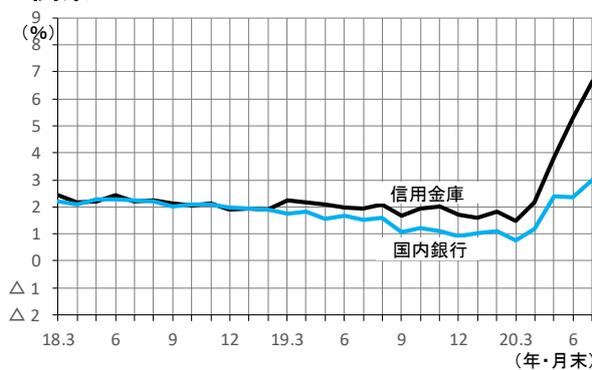
グループ⑫（近似水準から乖離へ：関東、四国、九州北部）は、この1年で信用金庫の貸出金増加率が国内銀行を引き離す形で差を広げている（**図表 16 参照**）。

グループ⑬（乖離が継続：北海道、北陸、東海、近畿）は、この1年で信用金庫の貸出金増加率が国内銀行と乖離し続けている（**図表 17 参照**）。うち、北海道は2020年2月末に、近畿は6月末に、信用金庫の貸出金増加率が国内銀行の貸出金増加率を上回る乖離が続いている。残る北陸、東海の2地区では、国内銀行の貸出金増加率が信用金庫を上回った状態が継続しており、東海では足もとでの差が大きい。

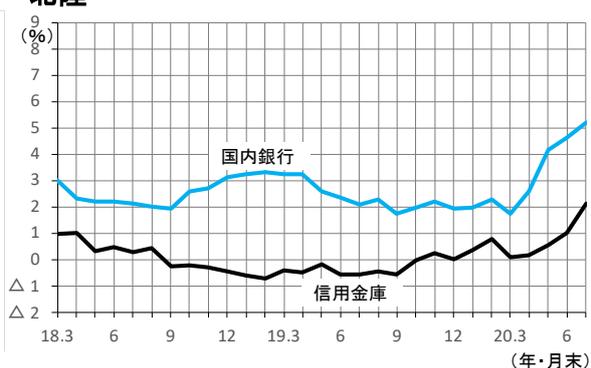
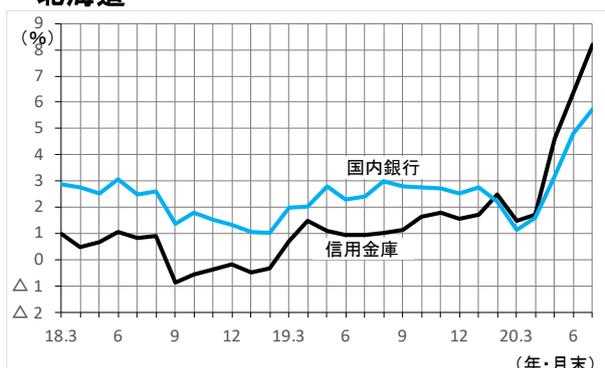
(図表 15) 信用金庫と国内銀行の貸出金増加率の対比 グループ⑪ (乖離から近似水準に)



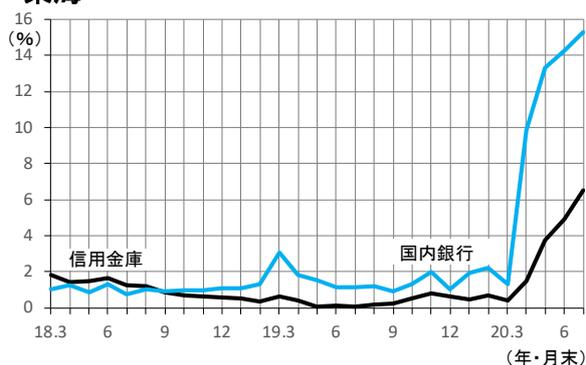
(図表 16) 信用金庫と国内銀行の貸出金増加率の対比 グループ⑫ (近似水準から乖離へ)



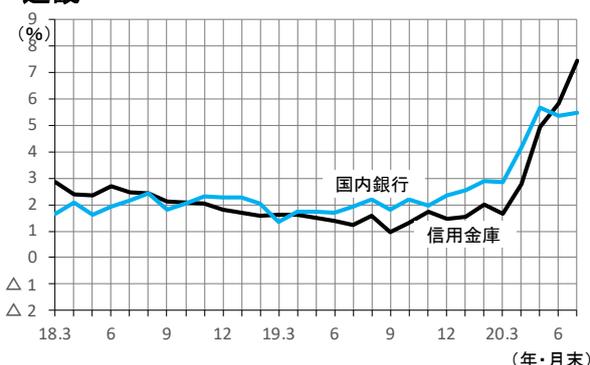
(図表 17) 信用金庫と国内銀行の貸出金増加率の対比 グループ⑬ (乖離が継続)
北海道 北陸



東海



近畿



次に、図表 5 における信用金庫の地区別貸出金増加率の水準別と、国内銀行の地区別貸出金増加率との大小関係を見た (図表 18 参照)。上位 4 地区のすべての地区で、信用金庫の 2020 年 7 月末の貸出金増加率が国内銀行のそれを上回っている。中位 3 地区のうち 2 地区で、信用金庫の 2020 年 7 月末の貸出金増加率が国内銀行のそれを上回っている。一方、下位 4 地区のうち、信用金庫の 2020 年 7 月末の貸出金増加率が国内銀行のそれを上回っているのは東北と中国である。信用金庫の 2020 年 7 月末の貸出金増加率が上位の地区グループほど、信用金庫の 2020 年 7 月末の貸出金増加率が同地区の国内銀行のそれを上回っている地区の比率が高くなっている。

(図表 18) 信用金庫の 2020 年 7 月末の貸出金増加率の水準別の国内銀行との大小関係

	上位地区	中位地区	下位地区
信用金庫 > 国内銀行	九州北部、北海道、東京、近畿	関東、四国	中国、東北
信用金庫 < 国内銀行		東海	南九州、北陸

おわりに

これまで見てきたように、信用金庫も国内銀行も、コロナ禍を受けた全国レベルでの緊急事態宣言が出た2020年4月末以降、貸出金増加率が急上昇している。これは、コロナ禍に苦しむ企業の資金繰り支援融資が増加したことが大きな要因である。同年7月末の信用金庫の貸出金増加率6.7%のうち、企業向け運転資金の寄与度は実に6.4%を占めている。今後は、リーマン・ショック前後のように、資金繰り支援融資の一巡後は、景気の悪化を受けた資金需要の後退を映し、貸出金増加率がマイナスにまで低下していく可能性がある。リーマン・ショック後の2009年2月末に2.6%で天井を打った信用金庫の貸出金増加率は、その後、2010年5月末のマイナス1.6%まで低下し、底を打った。その間、企業向け運転資金の寄与度は2.0%からマイナス1.2%まで低下している。その後、信用金庫の貸出金増加率がプラス基調となったのは2013年5月末からであった。コロナ禍の影響が長引けば、その分、景気の回復に時間を要しよう。テレワークの浸透など経済活動や社会活動がこれまでとは大きく変わる兆しを見せており、それに伴って業種別構成など資金需要のあり方も中長期的に変わっていくかもしれない。信用金庫や銀行の預貸金動向を引き続き注視したい。

以上
(間下 聡)

本レポートのうち、意見にわたる部分は、執筆者個人の見解です。また当研究所が信頼できると考える情報源から得た各種データなどに基づいてこのレポートは作成されておりますが、その情報の正確性および完全性について当研究所が保証するものではありません。

【バックナンバーのご案内：金融調査情報】（2020年度・第2四半期）

号 数	題 名	発行年月
2020-16	信用金庫の多面的評価制度の導入 -経営戦略 39-	2020年7月
2020-17	信用金庫の人事制度改革への取組み -経営戦略 40-	2020年7月
2020-18	信用金庫の「渉外センター制度」への取組み	2020年8月
2020-19	信用金庫の債権書類管理の集中化動向	2020年8月
2020-20	2019年度末における信用金庫の預金残高の増減状況 -トピックス～ネット支店（非対面取引支店）の出店動向～-	2020年8月
2020-21	2019年度末における信用金庫の常勤役職員の増減状況 -トピックス～ベテラン層職員の活躍拡大策～-	2020年8月
2020-22	2019年度末における信用金庫の出資会員数の増減状況 -トピックス～出資会員向け優遇サービスの例～-	2020年8月
2020-23	2019年度末における信用金庫の店外ATMの設置状況 -トピックス～地域銀行の取組事例～-	2020年8月
2020-24	2019年度末における信用金庫の個人預金口数の増減状況 -トピックス～未利用口座管理手数料の導入状況～-	2020年8月
2020-25	コロナ禍における信用金庫の預貸金動向 -制度融資と給付金で急増も7月以降は鈍化傾向-	2020年9月

*バックナンバーは信金中央金庫 地域・中小企業研究所ホームページを参照ください。

信金中央金庫地域・中小企業研究所 活動状況 (2020年8月実績)

○レポート等の発行状況

発行日	レポート分類	通巻	タイトル
20.8.4	内外金利・為替見通し	2020-5	日銀は一連の金融緩和強化策の効果を見極めるべく、様子見姿勢を保とう
20.8.5	ニュース&トピックス	2020-38	低下が続く信用金庫の貸出約定平均金利 一制度融資で残高が急増する反面、貸出金利回りが低下する場合もー
20.8.11	金融調査情報	2020-18	信用金庫の「渉外センター制度」への取組み
20.8.11	金融調査情報	2020-19	信用金庫の債権書類管理の集中化動向
20.8.11	金融調査情報	2020-20	2019年度末における信用金庫の預金残高の増減状況 ートピックス～ネット支店(非対面取引支店)の出店動向～
20.8.11	金融調査情報	2020-21	2019年度末における信用金庫の常勤役職員の増減状況 ートピックス～ベテラン層職員の活躍拡大策～
20.8.12	内外経済・金融動向	2020-3	海外経済の現状と当面の見通し ーコロナショックからの世界経済回復の道のりを考えるー
20.8.13	ニュース&トピックス	2020-39	資金繰り支援と給付金で信用金庫の貸出金・預金は急増 ー7月末の信用金庫の貸出金は6.7%増、預金は6.0%増ー
20.8.14	産業企業情報	2020-5	信用金庫の視点でひも解く 2020年版中小企業白書・小規模企業白書 ー新たな「価値」を生み出す中小企業、地域で「価値」を生み出す小規模事業者ー
20.8.17	内外経済・金融動向	2020-4	コロナ禍の地域経済への影響 ー外出自粛・休業要請の影響が大きい個人向けサービス産業を中心に考察ー
20.8.18	ニュース&トピックス	2020-40	業種別にみた信用金庫と銀行の資金繰り支援 ーともに飲食店や宿泊業で急増、銀行は大手製造業向けが大きく寄与ー
20.8.19	経済見通し	2020-2	実質成長率は20年度▲5.9%、21年度3.1%と予測 ー新型コロナウィルスの感染拡大が引き続き経済活動を下押しー
20.8.24	ニュース&トピックス	2020-41	7月の信用金庫の資金繰り融資残高は約20%の高い伸び ー新規貸出実行額は6月をピークに減少ー
20.8.28	金融調査情報	2020-22	2019年度末における信用金庫の出資会員数の増減状況 ートピックス～出資会員向け優遇サービスの例～
20.8.28	金融調査情報	2020-23	2019年度末における信用金庫の店外ATMの設置状況 ートピックス～地域銀行の取組事例～
20.8.28	金融調査情報	2020-24	2019年度末における信用金庫の個人預金口数の増減状況 ートピックス～未利用口座管理手数料の導入状況～

○講演等の実施状況

実施日	講演タイトル	主催	講演者等
20.8.26	持続可能なビジネスモデルへの転換について ーアフターコロナを踏まえてー	湘南信用金庫	刀禰和之

<信金中央金庫 地域・中小企業研究所 お問い合わせ先>

〒103-0028 東京都中央区八重洲1丁目3番7号
 TEL: 03-5202-7671 (ダイヤルイン) FAX: 03-3278-7048
 e-mail: s1000790@FaceToFace.ne.jp
 URL <https://www.shinkin-central-bank.jp/> (信金中央金庫)
<https://www.scbri.jp/> (地域・中小企業研究所)